



新入生の皆さんへ

附属図書館長 幸地成憲

ご入学おめでとうございます。

皆さんは大学へ学問を修め、教養を培うために入学したと思いますが、単に教育を受けるためでしたら、もう12年以上も小学校から高等学校までに経験済であります。

大学は教育の場には違いありませんが、学生にとっては、教育を受けるにしても、より自由なより自主的な選択ができるようになっていきます。大学は自己教育の場でもあり、自己研鑽の場でもあります。この学生の自主的な学習、自由な研究に欠くことのできない施設が大学図書館であります。大学図書館は教官、学生の自主的研究、学習を円滑にし、総合的な教養を培う場であり、又知的レクリエーションの場でもあります。皆さんの大学生活の中で、知的活動のために最も親しんでいただきたいのが図書館であります。

大学図書館がこの情報の氾濫時代にどのように対応しているかを簡単に紹介しておきます。

1970年代に入ってから発表された論文数は毎年200万件以上といわれていますが、これは1実働日当たり6,000～7,000件になります。学問の起源から現在までに蓄積された学術論文の量はローマ字にして10兆字以上に達するといわれ、件数にして2,000万件以上であり、図書(単行本)は個人蔵書を無視すれば、約1億点になると見られています。現在の琉大図書館のような建物が450以上も必要になるわけです。従って一図書館ではすべての情報や文献を収集することは不可能であります。その解決策として、国立大学図書館は相互協力のネットワーク作りを推進しています。現在行なわれている相互協力は1)相互閲覧、2)相互文献複写、3)相互貸借であります。また、コンピュータによるオンライン情報検索システムに加入し、即時に文献情報が入手できるような情報検索サービスを行っています。このコンピュータによるオンライン情報検索サービスにより、居なからにして、国内は勿論、外国の文献情報を知ることができ、国の内外を問わず、文献の入手が可能になってきました。このような図書館のサービス活動を大いに利用していただきたいと思います。

やまと旅のぼて

人によって旅のたのしみも異なるものである。ことに本土旅行の場合だと妙にぎくしゃくした、平静ではいられない気持ちになることを主要な目的にする者さえるだろう。

初めて降り立った土地の新鮮さや日常生活を離れた時に味わう一種の解放感。そして名所旧跡を観光したり、自らの感覚でじかにその風土をみるたのしさ。これらもすべて旅特有のものである。しかし、所詮ひとは自分の身につけただけのものしか持ち帰らないのである。

今回のトリオ出張もプライベートな時間ともなればおのずと各自の趣向にしたがって行動するのが常とした。博多から電車で3時間、多分に田舎臭さと南蛮情緒のただよう長崎に着いたのはすでに夕方金比羅山麓のあかりが車窓に流れる頃であった。

ただあてもなくうらぶれた路地を歩きながら、家のつくりや屋敷のたたずまい、人の顔にはなし言葉そしてそれらをひっくるめた全体としての沖縄とは異質なものを肌で感ずるのは、復帰の年に初めて本土の土を踏んで以来何ら変化がない。単に歴史的伝統や生活様式のちがいを強調するだけではおさまりがつかない、外見の特異性をこえたものへの本能的な反応なのである。いったん本土に来れば、内なる自分に向って問いかけるもうひとりの自己を発見する。われら沖縄人はいったい如何なる存在なのか、沖縄とは何かと執拗に自己確認をせまる声をきく。はっきりした理論的根拠を示せないながらも本土に対して「異族」を感じているのかもしれない。日本国家の中であってこのような感概をいだくのは沖縄の人間をおいてほかにはありえないだろう。そこに「沖縄県政100年」ではなく、「琉球処分100年」でなければならぬ理由もあろうか。

こうして本土に行くことが多分に心のひっかかりを生じさせることではあっても、さて来てしまえばそれなりの効用はある。古書店をたずね歩くことが私にとっては公私ともに実用を兼ねた第一のたのしみ、文字通りの享楽である。古本と言えば聞こえは悪くとも学習参考書や週刊誌、漫画をただ雑然と並べた、無性格な本屋が本来の古書店ではない。(残念ながら沖縄の古書店はこの域を出ていない)そこには古書店と言えどもおのずと秩序があるのだ。かって三木清は「書物の倫理」と題する一文の中で次のように書いた。「或る人の文庫を見ればその人の性格がおのずから現われている。そこに文庫の倫理とでもいうべきものがある。文庫を見れば主人が何を研究しているかというようなことが分る以外に、そこに更に深いもの、即ちその人の性格が自然ににじみ出ているのが面白い。本は自分に使えるように最もよく使えるように集めなければならない。そうすることによって文庫は性格的なものとなる。そしてそれはいわば一定のスタイルを得て来る」と。

成程、そう言われてみれば個人の文庫にとどまらず古書店や図書館にも同じことが言えるような気がする。経済関係ならA書店、文学関係ならばB書店とあるもので、時として年期の入ったオヤジには専門的な内容に立ち入ってまで教えられることがある。個性を有するということは、とりもなおさず自らを他者と区別し、自らのあり方を問うことを意味する。一度でも神田や本郷、高円寺あたりを歩いた経験のあるひとなら、誰しも古書店めぐり共通の、あの隈から隈まですばやく書棚に目をとおす宝探しにも似たたのしさに覚えがあるはずだ。そして、今度の福岡、長崎の古書店探索においても同様であったばかりでなく、少なからぬ収穫を得たのであった。

古書店に関する限り、概して大阪、京都、東京といった大都市に、特徴のある専門別の古書店が集中しているのは、その需要に応じた結果だとしても、各書店の定期古書目録とか「日本古書通信」更にはクチコミに至るまで雑多な情報が飛びかう環境は、へき地に住む人間にしてみれば何ともうらやましい限りである。

こうしてみると私の本土旅行にはひとつの傾向、つまり久しく疎遠になっていた「祖国」に精神的

なよりどころや慰安を求めるそれというよりは物質的な渴望を満たすような純然たるプラグマティズムの傾向があるように思える。

(閲覧係 伊佐真一)

JOIS公衆回線サービスについて 2

前号でお知らせしましたJOIS公衆回線サービスを昭和55年4月1日から実施することになりました。つきましては教官各位がご利用いただくようお願いいたします。

琉球大学とJICST間の契約書に、JOISの出力物について次のような禁止条項がありますので利用者各位が順守してくださるようお知らせします。

(出力物の複製等)

第9条 出力物(甲の端末機から出力されるファイル内容および前条の回答書をいう。以下同じ)は、甲の教職員の調査研究以外の目的に利用してはならない。

2 出力物は、甲の教職員の調査研究以外の目的に供するために複製又は編集してはならない。

3 出力物は、印刷または電子計算機可読記録の方法によって複製又は編集してはならない。

(出力物の配布)

第10条 出力物およびこれを複製し、または編集したものは、乙の承認なしに甲の職員以外の第三者に配布してはならない。

2 出力物およびこれを複製し、または編集したものの国外への持出しは次の各号の定めに従うものとする。

(1) JICST理工学文献ファイル、CLEARING国内研究ファイルおよびMEDLARS医学文献ファイルは乙の承認を必要とする。

(2) CASEARCH化学文献ファイル、TOXLINE毒性文献ファイルおよびSSIE米国研究案内ファイルは国外へ持ち出すことはできない。

(条文中の甲は琉球大学、乙は日本科学技術情報センターのことです)

なお3月25日(火)10~12時に法文ビル101教室において丸善DIALOGシステムの説明会を開催しました。参加者は29人で中教官は6人でした。

近日中にDIALOG検索サービスも行う予定です。

理学部図書室 4月1日(火)開室

附属図書館では理学部の新キャンパスへの移転にともない、教官、学生の教育研究に十分対応できるようかねてより準備をすすめていたがこの程理学部棟内2階会議室に図書室を開設、4月1日(火)からサービスを開始します。

開閉時間は月~金、08:30~17:00まで(土曜日は12:30まで)

資料は理学部関係図書約2,142冊(バックナンバーを含む)新着雑誌202種が開架され、資料の利用を待っている。

また貸出冊数は2冊10日間(雑誌類、参考図書等は除く)で従来どおりである。

閲覧規程の改正について

附属図書館は、土曜日は平日に比べ利用者が多いため今年4月1日から土曜の閉館時間を延長し、学生へのサービス向上を図る必要があります琉球大学附属図書館閲覧規程の一部が次のように改正された。

琉球大学附属図書館閲覧規程の一部を改正する規程

琉球大学附属図書館閲覧規程（1963年6月29日理事会制定）の一部を次のように改正する。

第3条第2項中「16時」を「16時30分」に改める。

第8条第7号中「1ヶ月」を「1月」に改める。

この規程中「または」を「又は」に改める。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

新 着 図 書

哲学 井上忠編 弘文堂 1979	101-I57	西国立志編 Samuel Smiles 著	283-Sm
哲学概論 三宅剛一 弘文堂 1976	101-Mi76	中村正直訳 同人社蔵版 明治4年	
哲学の話 大島正徳 宝文館出版 1978	101-O77	鎖国時代日本人の海外知識 開国百年記念文化事業会 原書房 1978	290.7-Ka21
哲学とは 田口寛治 理想社 1978	101-Ta19	悠久の大地に立って—私のインド紀行 池田大作 聖教新聞社 1979	292.509-I32
知の変貌 中村雄二郎 弘文堂 1978	104-N37	社会科学の方法と歴史 行沢健三他編 ミネルヴァ書房 1978	300-Y97
自然思想史 国谷純一郎 三和書房 1978	112-Ku46	マックス・ウェーバーの社会科学論 ランシマン著 湯川新沢 法政大学出版局	301-R86
日本国誕生の謎 鯨 清 日本文芸社 1978	210.3-Ku25	戦後日本の政策目標の評価 田中靖政編 学習院 1978	301-Ta84
日本人とロシア人 中村新太郎 大月書店 1978	210.5-N37	アメリカの人種と文化 Mario Pei 著 大島良行訳 中央大学出版部 1973	302.53-P35
幕末維新期の研究 石井孝 吉川弘文館 1978	210.58-I75	技術から象徴の世界へ 飯塚忠雄 イザラ書房 1979	304-I28
明治初期文化史 清原貞雄 賢文館 1935	210.6-Ki85	韓国イデオロギ論 亜細亜政策研究院 成甲書房 1978	311.22-A27
新編西南戦史 陸上自衛隊北能本修親会編 原書房 1977	210.627-R42	ルソーの政治思想 樋口謹一 世界思想社 1978	311.23-H56
昭和動乱の真相 安倍源基 原書房 1977	210.7-A12	近代天皇制への道程 田中彰 吉川弘文館 1979	312.1-Ta84
大逆事件と内山憑童 柏木隆法 JCA出版 1979	289.1-Ka77	近代日本の政治家 岡義武 岩波書店 1979	312.8-O36
無政府地獄 安成二郎 新泉社 1973	289.1-O79		
江藤新平と佐賀の乱 園田日吉 新人物往来社 1974	289.1-So45		

天皇制研究 守屋典郎 青木書店 1979	313.6-Mo72	奥田暁子他訳 未来社 1978	
今日の日豪問題 日豪学術文化センター太陽書林 1978	319.171-N71	女性解放とは何か 松井やより 未来社 1975	367.8-Ma97
日本人と法 神島二郎他編 ぎょうせい 1978	320.4-Ka 38	子どもの自殺 稲村博 東京大学出版会 1978	369.16-I 53
法学の基本原理 赤坂昭二 成文堂 1978	321-A32	人間の尊厳と科学 西山卯三編 勁草書房 1978	400-N87
インド憲法の基本問題 大内穂編 アジア経済研究所 1978	323.62-O91	近代科学の源流 伊東俊太郎 中央公論社 1978	402-I 89
日照の補償 用地行政研究会 中央法規出版 1979	324.55-Y72	化学・薬学・生物医学の文献調査法 笹本光雄 地人書館 1978	407.6-Sa76
民事訴訟法 三ヶ月章 弘文堂 1979	327.2-Mi 22	地震予知の方法 浅田敏編著 東京大学出版会 1978	453-A81
民訴法講義 中野貞一郎他 有斐閣 1978	327.2-N39	幼児自閉症の研究 カーナー著 十亀史郎他訳 黎明書房 1978	493.937-Ka57
不確実性のもとにおける経済と経営の対応 名古屋大学経済学部 1979	330.4-N27	土を喰ふ日々 水上勉 文化出版局 1978	596.1-Mi 36
日本経済の進路 総合研究開発機構 東洋経済新報社 1979	333.6-So28	詩と批評E 田村隆一 思想社 1978	901.1-Ta82
人口問題 矢内原忠雄 岩波書店 1978	334.3-Y54	小説と時間 川端柳太郎 朝日新聞社 1978	901.3-Ka91
出ニッポン記 上野英信 潮出版社 1977	334.46-U45	我を求めて—作家論集— 勝又浩 講談社 1978	910.26-Ka88
経営代理制度論 小池賢治 アジア経済研究所 1979	335.5-Ko 31	冬を追う雨 詩集 北村太郎 思潮社 1978	911.56-Ki 68
知的競争時代に勝つ 広田広三郎 日本経営出版会 1978	335.92-H74	花地獄 鈴木清順 北冬書房 1977	913.6-Su96
見えざる大学—科学共同体の知識の伝播—ダイアナクレオン、岡沢和世訳 敬文堂 1979	361.6-C91	火の車 立松和平 集英社 1979	913.6-Ta94
ヨーロッパからの発想 木村尚三郎 講談社 1978	361.6-Ki 38	別れた友 飯島耕一 中央公論社 1978	914.6-I 27
ふるさと幻想 森崎和江 大和書房 1977	361.6-Mo63	止まらない時間のなかを 草野心平 PHP 研究所 1976	914.6-Ku84
日本人の世界地図 長田弘他 潮出版社 1978	361.6-O72	いまもむかしも愛別ばなし 水上勉 文化出版局 1977	914.6-Mi 36
日本社会主義の思想 松沢弘陽 筑摩書房 1973	363.021-Ma93	唐詩の鑑賞 横山伊勢雄 ぎょうせい 1978	921.4-Y79
女性解放の政治学 フリーマン著	367.8-F 46	ドイツ文学研究文献要覧 1945—1977 森本浩介編集 日本アソシエーツ 1979	940.31-Mo55
		ランボー「酔いどれ船」搜索 篠原義近 国文社 1978	950.28-Sh67

図書館事情

〔図書館運営委員会〕

○第126回図書館運営委員会要録

日時：昭和55年1月18日（金）13：10～15：20

場所：会議室（プレハブ2階）

審議事項：

- (1) 理学部・法文学部・教育学部・教養部の図書室について

報告事項：

- (1) 図書館建築について
- (2) 本館の蔵書構成について
- (3) JOISについて
- (4) 沖縄県庁所蔵資料について

○第127回図書館運営委員会要録

日時：昭和55年2月15日（金）13：10～14：40

場所：会議室（プレハブ2階）

審議事項：

- (1) 開館時間（土曜日）の延長について
- (2) 伊波文庫「渡琉日記」について

報告事項：

- (1) JOIS について

〔図書館研修会〕

東京大学附属図書館長藤原鎮男教授を講師に迎えて「学術情報と大学図書館」と題して研修会を開催した。スライドをまじえて欧米のコンピューターによる情報サービスについて、又今後の日本における情報検索サービスの在り方を示唆していただき、興味深い有意義な講義でありました。

参加人員 30名

日時：昭和55年2月25日（火）14：00～15：30

場所：琉大法文ビル101教室

〔講習会、会議〕

- JOIS講習会 2月5日（火）－7日（木） 於博多新三井ビル地下1階会議室 山田勉参考調査係長 松島寛正主任参加
- 九州地区国立大学附属図書館実務連絡担当者会議 2月22日（金）於九州大学附属図書館 平良恵仁事務長 宮島恵暁雑誌係長参加
- 丸善DIALOGシステムの説明会 3月25日（火）10：00～12：00 於琉大法文ビル101教室 平良事務長以下28名参加

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第13巻 第1号〔通巻第46号〕
昭和55年3月26日 発行人 平良恵仁 沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地
電話 87-0101（内線338）